

地域資源、ITC等を活かした（健康・教育・環境・危機管理）施策の深化

「藤枝市ゼロから農業エントリー制度」を活用した新たな「いきがい+健康+得する農業」の普及に関する研究

静岡産業大学：教授 堀川知廣

参加学生：永田琉晟、萩原健太郎、船津優太、

武藤拓見、門奈侑希

## 1 要約

遊休農地対策として藤枝市が今年から始めた「ふじえだゼロから農業エントリー制度」が、全国のモデルとなる事業として発展するよう、先行事例の調査をするとともに、本事業にエントリーをした市民へのアンケート調査を行い、市への要望等を把握し、小規模農地での野菜などの栽培がだれでも可能になるよう、主要な野菜についての栽培マニュアルを作成し、配布した。

## 2 目的

藤枝市が5月からスタートした「ふじえだゼロから農業エントリー制度」は、農地法第3条の許可要件を大幅に緩和し、小面積を農業者以外が利用できるこれまでにない制度である。本制度は、遊休農地対策としての新たな手法に取り組むものであり、生きがいづくり、健康維持などにも期待が大きな施策である。この制度が多くの者に利用されるようになるためには、成功事例を早急に作っていくことが求められ、このことが藤枝市の行政手腕の高い評価につながると考える。

そこで、本制度へ申し込んだ新しく農業を始める者が、楽しく、生きがいを感じ、作った農作物を売る喜びも味わい、健康的で、長く自分らしい農業を続けることができるように支援することが必要である。このため、先行地域の調査を行うとともに、狭い農地でも多種類の栽培が行えるような年間栽培計画、土づくりから作物別の栽培管理、収穫販売までについて、初心者でもわかりやすい、「ゼロからスタート農業マニュアル」を作成し、配布する。また、新たなこの制度が長く続く仕組みについても提案していく。

## 3 研究・調査内容

### (1) 先行類似事例の調査

浜松市「集落内の狭小農地の利用制度」、神奈川県町田市「農地あっせん事業・町田市農地利用集積円滑化事業」、神奈川県「あいかわ準農家」について、市役所・役場の担当者から、制度創設のねらい、現状について聞き取り調査した

### (2) 「ふじえだゼロから農業エントリー制度」申請者へのアンケート調査

9月までにエントリー制度に申請した10名に、以下の項目についてアンケート調査を行った。回答者は7名。

### (3) 新たに農業を始める者に向けた「失敗しない高品質農産物の多種少量栽培マニュアル」の作成

借用した農地をフルに使って、初心者でも、年間消費する多種類の野菜等を栽培するためのマニュアルを作成し、本制度を長く活用する者を増やす。

#### 4 研究の成果

##### (1) 先行類似事例の調査

###### ① 浜松市「集落内の狭小農地の利用制度」

日時：6月11日 金曜日 14時から15時

対応者：産業部農地利用課農業委員会事務局

鈴木智久課長、河村幸一郎副技官、大井麻美主任

・平成29年年度創設

・制度の概要

範囲：市街化区域を除く農地のうち、大規模既存集落内の農地で宅地化率が4割を超える街区内の農地

期間：3年ごとに更新

内容：無償による権利の設定または有料の設定、1年に1回の利用条項報告書を提出、農地の斡旋は市役所では行わない、面積は2a以上10a未満

運用：現在の利用者は3件、賃借料の標準は10a当たり1万2千円（具体的な賃借料は市役所では把握していない）、市役所では本制度の活用を広報していない、本制度は浜松市独自で制度設計

###### ② 神奈川県町田市農地あっせん事業（町田市農地利用集積円滑化事業）

日時 2021年11月10日 13時～16時

場所 町田市役所 現地

調査者：堀川、学生（永田、萩原）

対応：町田市役所農業振興課 皆木将志振興担当係長

実績：農地バンク登録 18.3ha373筆（私有地208筆、民有地165筆）

担い手バンク登録者数 98名（新規就農者29名、中小規模農家22名、市外農家4名、NPO3者）  
マッチング成立 45社 17ha

###### ③ 神奈川県愛川町「あいかわ準農家制度」

日時：2021年11月15日 13時30分～15時

対応：愛川町役場 農業政策課長 岡部誠一郎、 農業委員会事務局 成井健浩

出張者：堀川、門奈（学生）

制度を作った背景：相続などから世代交代の影響で農地は小規模化・点在化、高齢化で後継者不足の懸念など

準農家基準：自給自足生きがいを目的に耕作を行う者、耕作に必要な農作業に常時従事できる者

農地を効率的適正に利用できる者

希望者は農業委員会に申請⇒総会で審査⇒結果を通知

利用状況 令和元年 申請19 マッチング16

令和2年 申請24 マッチング16

令和3年 申請15 マッチング2 (10月までの実績)

キ 利用面積 10月現在 34人利用 163.6a 4.7a/人

ク 今後の方針 更なる呼びかけ 町内あるいは自動車ですぐの者

(2) ふじえだゼロから農業エントリー制度申請者アンケート調査結果

7名のアンケート回答を取りまとめた結果は以下のとおり (抜粋)

利用する者 (本人、家族)	・本人 (7名)
<p>申し込んだ理由 該当する項目に○をつけてください</p> <p>○をつけて人数</p>	3 くつろぎ・安らぎが得られる
	3 ストレス解消・健康増進
	2 生きがい対策
	休日などの余暇時間の有意義に過ごす
	1 家族との触れ合いにつながる
	景観の維持につながる
	家庭から出る生ゴミ対策
	2 地球の環境保全につながる
	1 安全・安心や野菜が手にはいる
	5 新鮮な野菜が手に入る
	農家との交流ができる
	3 地域住民と交流ができる
	1 収穫祭や交流イベントを行いたい
	3 耕作放棄地減少につながる
	農業への理解が進む
	3 子供たちへの環境協教育、食育につながる
	2 家計を楽にしたい
1 アボガドを栽培したい	
1 有機栽培に取り組みたい	
2 将来就農したい	
利用したい面積は	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10a くらいの農地を貸してもらえる制度になることを希望</li> <li>・100 m<sup>2</sup>以下</li> <li>・200 m<sup>2</sup>くらい</li> <li>・1000 m<sup>2</sup>くらい</li> <li>・1000 m<sup>2</sup>程度</li> <li>・1000 m<sup>2</sup></li> <li>・100 m<sup>2</sup></li> </ul>
何年間くらい利用したいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年以上</li> <li>・できれば長期間</li> <li>・わからない</li> <li>・3年以上</li> <li>・3年以上</li> <li>・3年以上</li> <li>・3年以上</li> </ul>
技術や知識を教えてくれる人は必要か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いると助かる・必要・いると助かる・専門家の教えがほしい・無</li> <li>農業栽培の仲間がいる・いると助かる・いなくてもよい</li> </ul>

栽培講習会は必要？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あれば参加する</li> <li>・できれば利用した</li> <li>・参加は考えていない</li> <li>・アボガド研究会に入っている</li> <li>・あれば参加する</li> <li>・必要ない</li> </ul>
どんな作物を作りたいか？品目数は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20～30種類を作る</li> <li>・果樹も栽培したい</li> <li>・パイプハウスを設置できれば</li> <li>・簡単に栽培できる野菜</li> <li>・さつまいも、ジャガイモ、タマネギ、スイカなど</li> <li>・アボガド</li> <li>・無農薬野菜</li> <li>・レモン、ミカン</li> <li>・ジャガイモ、タマネギ、夏野菜など</li> </ul>
農薬や肥料は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無農薬で行いたい</li> <li>・化学肥料は使う予定</li> <li>・使い方を知りたい</li> <li>・使うことも考えている</li> <li>・使うことも考えている</li> <li>・使いたくない</li> <li>・使いたくない</li> </ul>
土づくりは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昆布残差を使って有機たい肥作りをする</li> <li>・連作回避の方法を知りたい</li> <li>・土づくりの方法を知りたい</li> <li>・場所を見てから考える</li> <li>・必要だが、輸入しようなどの農薬の有無に注意したい</li> <li>・アドバイスが欲しい</li> <li>・たい肥などを使う</li> </ul>
参考になる図書は必要？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素人がたい肥を作るまでの参考書が欲しい</li> <li>・実用的な資料が必要</li> <li>・農業の専門家の栽培の仕方がわかる本が欲しい</li> <li>・ネットで調べる</li> <li>・必要</li> <li>・自然農法の本で勉強している</li> </ul>
エントリー者との交流は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば交流の機会が欲しい</li> <li>・わからない</li> <li>・話を聞きたい</li> <li>・考えていない</li> </ul>
その他 市役所などに頼みたいことなど どんなことでもよいので記入してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業記録を付ける（栽培日記、収穫量）</li> <li>・病害虫が分からない</li> <li>・いろいろな候補地を見たい</li> </ul>

(3) 新たに農業を始める者に向けた「失敗しない高品質農産物の多種少量栽培マニュアル」の作成

内容：栽培の基本（播種・育苗、土づくり、肥料、農薬など）

主な野菜の栽培 23 種類

A4 判、67 ページ 100 部印刷 エントリー者に配布

## 5 地域への提言

遊休農地対策は、自給率の低い我が国においては喫緊の課題であり、地域においては、農地の有効利用、農村地域の景観維持、小規模でも農業を行いたいと希望している市民へのサービスとして、大変重要な施策である。

藤枝市が始めた事業に類似した事業を行っている先進事例として3例調査を行ったところ、神奈川県愛川町の「あいかわ準農家制度」が順調に利用が伸びている優良な事例であり、役場の農業委員会が積極的に事業を推進していることがあげられる。制度は人が動かすという良い事例である。本事業の申請者は令和4年1月時点で26件あり、順調に伸びているが、農地の斡旋に・マッチングに時間がかからないよう、また、多くの市民が本制度を利用するよう、担当職員の働きに期待したい。

また、申請者へのアンケート調査の結果から、野菜づくりの技術や知識の支援を必要としていることが明らかになったことから、だれでも高品質な野菜を作ることができるマニュアルを作成した。申請者などに配布をし、多くの市民が本制度を利用して農業を始めるようにしとしても支援をお願いしたい。